

第 1 章

こどもは地球を

守りに来た

ちっちゃな神さま

私たちは、もともと1つの光だった!?

幸せしかない世界で「幸せ」は味わえない

すぐ幸せそうな人を見ると自分までハッピーになったり、反対に、友達が落ち込んでいると自分まで落ち込んだり、ニュースで悲しい事件を見聞きすると胸が張り裂けそうになったりすることって、ありませんか？

なぜこんな気持ちになるのでしょうか？

それは、私たちは今この瞬間も1つにつながっているからです。

1つにつながっている？ そんなこと、すぐ信じられるわけありませんよね。

だって、私たちにはそれぞれの体があるし、考えていることだって、見ているものだって違うのですから。

この真実に関してはゆっくりとお話していきますから、今は、「へえ、そんなことがあるんだあ」ぐらいに聞いておいていただいて大丈夫です（きつと、読み終わるころには確信に変わっていると思います）。

ところでみなさんは、私たちが生まれてくる前のことを想像したことはありますか？ つまり、この体を手にする前の自分のことです。

実は、私たちがこの地球に来る前、私たちはもともと1つの大きな光でした。「ワンネス」と言うと、聞いたことがあるかもしれませんが、この本では「光の世界」と表現していきます。その世界はとっても穏やかで、悩みごとなんて存在できないし、瞬時に自分の願いがとも叶ってしまう、夢のようなところです。

そこには、辛い、悲しい、苦しい……などの感情がなく、とにかく幸せだけが、

果てしなく広がり続けています。

では、なぜそんな心地いい世界から、苦しみや悲しみなどを感ずる地球にわざわざ降りてくるのかというところ……**光の世界には「幸せ」しか存在しないので、平凡でつまらなくなるからです。**幸せがつまらないなんて、辛いことの多い地球人（私たち）には理解しがたいかもしれませぬね。

でも、私たちが「幸せだな」と感じられるのは、苦しいことや辛いことを経験したからこそ。

女子たちが大好きなケーキにしたって、たまに食べるからすごく美味しいと思えるのです。ケーキバイキングに行ったすぐあとは、「ああケーキ食べたい♡」と思うより、むしろしょっぱい物が食べたくなりますよね（笑）？

人間関係にしてみても、「この人、好きだな」と思えるのは、気が合わない人、苦手な人と接した経験があるからこそ。

こんなふうに、ここ地球は、何かと比較してしか知ることのできない場所。でも、比較するからこそ、自分がどんな人かが分かるし、愛のすばらしさが分かるのです。

そして、この地球は光の世界から見ると、どこに存在しているのかと言うところ……大きい枠組みで見れば、光の世界の一部分にしか過ぎませぬ。

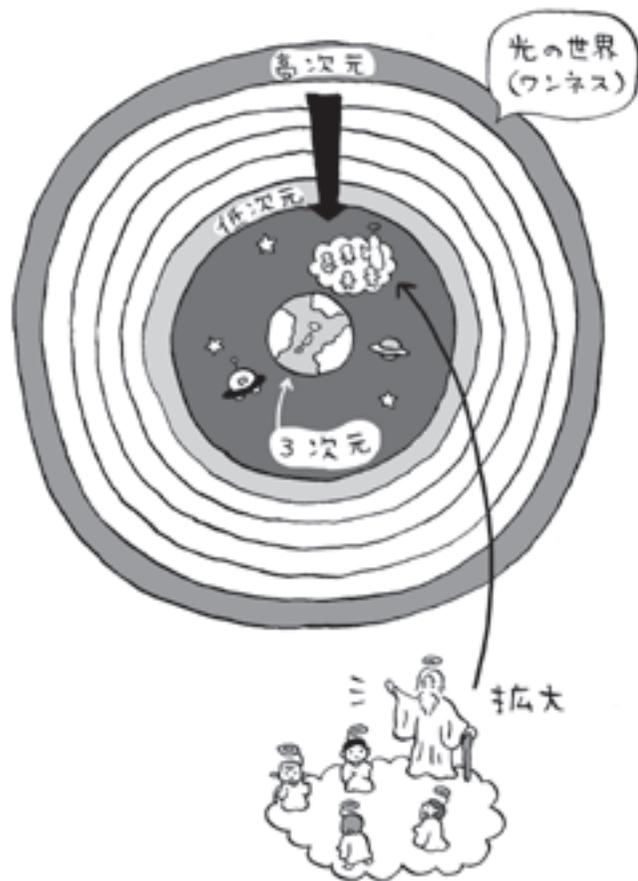
【社会】という大きな枠組みのなかに【会社（企業）】や【学校】が存在するのと同じで、【光の世界】のなかに【地球】は存在しているのです。

そう考えると、今もなお、私たちは光の世界の一部にいる、ということになりますね。

話を戻すと、この光の世界から見ると、地球はとっても魅力的！

「自分ってなんだ？」

「愛ってなんだ？」



というちよつとした好奇心が、大きな光からの枝分かれ（分離）を引き起こすのです。大きな光は、自分を知るためにまたさらに枝分かれを続けて、その光の延長の一番末端が「1つの命」となります。それが、私たちです。

ですから、私たちの本来の目的は、誰もが「自分を知ること」なんです。

本当はみんな1つの光でつながっているのですが、

「自分とは何か？」

「愛とはどういうものか？」

を知りたくて、この分離の世界を味わっているのですね。

命の誕生とは、 「神さま」を生み出すこと！

私たちは1つの命を分け合って生きている

「はじめに」でも少し触れましたが、7歳の娘ひかりは、地球に来る前の記憶が残っている胎内記憶保持者です。

そのひかりがつい先日、こんなことを教えてくれました。

「ママ、あたしに命を分けてくれてありがとう。」

あたしとママは同じ命でつながっているから、あたしが嬉しかったり、誰かに優しくすると、ママの命も輝くんだよ♡」

ひかりは、1つの命をみんなに分け合って生きていることを知っているのです。自分は大きな光、神さまのエネルギーから生まれてきたことを、当然のように分かっているのです。

たしかに、私はひかりを産んだ瞬間、圧倒的な光を感じました。分娩室全体が光に包まれるほどの大きな輝きです。実際、出産に対する最初の感想が、「神さまを産んでしまった……！」であることは、先にも触れましたが、その強烈な荘厳さは、今も忘れることなく、私の心に残っています。

自分を愛すること || 他の誰かを愛すること

目に見えないだけで、私たちはみな1つの命から生み出された存在です。苦手な相手と自分が同じだなんて思えないかもしれませんが、本当のことを言うと、「個別」に見えるのは幻想で、実態は、すべてが1つにつながっているのです。

それは、手のひらと指先の関係のようなもの。

5本の指はそれぞれ独立しているけれど、その元をたどると、どの指も手のひらにたどりつきますよね。【指】は【手のひら】という1つにつながる部分があるからそれぞれが動くように、「私たち」も大本の「神さまという愛のエネルギー」につながっているのです。



よく、「自分を愛することが大切」と言われますが、それは自分の命を大切にすることが、人の命も大切にするにつながっているからなのです。

この地球で暮らしていると、命の根源である愛のエネルギーはあまりにも遠くにあるように感じるのです、その真実は見えにくいかもしれませんが。

そんなときは、「愛を感じるもの」に目を向けてみてください。たとえば、赤ちゃんを見ると「かわいいな、愛らしいな」と胸がキュン♡ となりますよね。

それは、私たちが愛を感じる心を持っているからです。

また、がんばってる人を見ると応援したくなったり、困っている人を見ると助けてあげたくなったり。

それは、私たちのなかに相手を思いやる気持ちや、相手を慈しむ気持ちがあるから。

これらは、私たちが神さまから離れていない、という何よりも証拠なんです。

地球ってこどもたちに 大人気の星なんです♪

地球に行けるのは魂のチャレンジ集団だけ！

怪しい話をしたついでに、もう少し怪しい話をさせてください（笑）。

では、いったい1つの光からどうやって人間になるの？と思われた人も多いのではないのでしょうか？

実は、この地球を含む宇宙全体は、P33で紹介したイラストのように、1つの大きな光で包まれています。

私たちの源は、ここにあります。

そして、先ほども話したように、「自分とは？」「愛とは？」を知りたくて、1つの大きなエネルギーが雲をちぎるように分離し始めます。

一番最初は、1〜2万人分くらいの魂がひと塊で、大きなエネルギーから枝分かれます。

そのなかから、「地球に生まれない！」という200〜300人くらいの魂が、さらに枝分かれます。

またさらに、20〜30人分くらいの「私は、地球で絶対こういうことをしたい！」という熱いビジョンを持った魂が枝分かれます。

何万、何十万、何千万……という無限の魂のなかから選ばれた20〜30人分の魂は、いわば、魂のチャレンジ集団。そして、この20〜30人分くらいの魂のまとまりを、グループソウル（魂の家族）と言います。

グループソウルの人たちは、地球に来たあと、たいいてい、【親子】、【パートナー】、【親戚】など身近なところで出会うようになっていきます。

地球の周りには、この無数の宇宙船が飛んでいて、地球で「こどもを育てて自分を成長させたい」という女性の潜在意識をキャッチしています。それらの情報がある程度ピックアップしたあと「この地域に、こどもをほしがっている女性がいます」という情報を神さまに送るのです。

実は、私には過去、宇宙船に乗って仕事をしていた記憶があります（さらに怪しくてすみません。笑）。

地球には滑り台で降りてきたよ！

いじゃない！「泣」と心配になったあなた。
安心してください！**実は、1人が地球で経験したさまざまな情報は、大きな魂の集団に転写され、同じ情報を共有できるようになっています。**
1人が経験したことは、みんなも経験した気持ちになれるんです。

「生きるの辛い〜」「人生ってなんでこんなに不公平なの〜」と思っているあなたも、宇宙では、「地球でいろいろな体験がしたい!!」と張り切っていたのですね。こうして考えると、地球に降り立つ魂は、ほんの一握りということですよ。
「これでは地球に生まれたい！」と言っても、なかなかチャンスが回ってこな



すると、神さまは地球に降りる準備ができたこどもたちにその情報をシェアして、こどもたちの希望と一致するママを見つけます。

就職活動において、【人気企業】があるように、ママにも【人気ママ】が存在します。人気ママはこどもたちで取り合いになるので、その場合は、兄弟になって生まれることもあります。

こうして魂のまとまりがどんどん小分けになっていき、地球という3次元を指す魂が体（物質）のなかに入っていくのです。

このとき、魂自体が物質化しているわけではありません。

魂はずっと大元である光の世界とつながり、体と結合することで【人間】という名の固体になります。

ちなみに、どうやって地球に降りるのかというと、いろいろな方法があるようですが、ひかりは「滑り台で降りてきた」と言っています。

雲の上からママのお腹に通じる長い滑り台があって、そこを滑って、私のところに来たそうです。面白いですね！

進化した星から来たこどもたちが、地球に急増中！

この広い宇宙には、進化した星も多数存在しています。そのような星には、この地球のように戦いもなければ、嫉妬も憎しみも、奪い合いも存在しません。どちらかと言えば、光の世界に近く、本当に穏やかな世界です。

地球に住む私たちにとって、憧れの星ですよ。

ところが、私が最近感じるのは、進化した他の星から来た魂を持つこどもたちが、地球にたくさん生まれて来ているということ。

進化した星から来たこどもたちは、「インディゴチルドレン」とか「クリスタルチルドレン」「スターチルドレン」などと呼ばれています。

彼らは、地球に来る前に、意識レベルで会話（テレパシーみたいなもの）をしていました。

そのなごりで地球では言葉をしゃべり出すのが遅かったり、また梓に囚われない自由な気質があるため、理解されにくく、病名がつくこともあります。

しかし彼らは自分の得意なことを通してメッセージを表現してくれます。

そんな彼らの話によると、今進化した星から来ているこどもたちが多いのは、この地球のレベルをもっともっと引き上げたいから、だそう。

ひかりも、

「地球は、まだたった3歳の星だよ」

と言いますが、まさに、宇宙のなかで言うと、地球は幼稚園生レベルの星。

喧嘩はダメだよ、殺し合いをしちゃいけないよ、人の物を盗んじゃいけないよ、ということをお教えるくらいレベルなので、もっと成長させるために、進化した

星から、たくさんのおともたちが来ているそうなのです。

普通、体を持つと、宇宙での記憶は消えてしまいます。しかし、進化した星からやって来た彼らはその記憶を忘れずに持っていて、地球を進化に導こうとしてくれる勇敢な者。

新しい時代に入り、地球が「はじめまして」のおともたちも多く生まれているのですね。

地球は「喜怒哀楽」を経験できる貴重な星

空の上では、とっても人気のある星。地球ですが、地球に来られる確率は、実は宝くじで1等賞を当てるくらいの高倍率です！

私たちはすごい難関をくぐりぬけて、今ここにいますね。

では、なぜそんなにも高倍率なのかというと、地球は宇宙のなかでも「自由意

「思」を与えられている特別な星だからです。

自由意思とは、自分の思ったこと、考えたことを表現すること。そのために、「感情」が与えられています。

地球は別名「水の星」とも言われますが、**水と感情はリンクしています。**「水に流す」「水が合わない」など、「水」がつく慣用句は感情と結びついているものが多いように、いろいろな感情を味わって「自分」というものを探求できるような仕組みになっているのです。

実際、私たちの悩みの多くは、感情に振り回されることによって起こります。

イライラを抑えられずこどもを怒鳴っちゃう、旦那さんに当たってしまう、逆に、感情を抑えすぎて不満が溜まったり……。

感情をコントロールできないのは、先ほども話したように、地球はまだまだ精神年齢が幼い、幼稚園生レベルの星だからです。

幼稚園でおもちゃ遊びをするとき、先生は「遊びたいときは『貸して』と言おうね。みんなで仲良く遊びましょう」と言いますよね。

でも、幼稚園生にとって自分のおもちゃを人に貸すのは、おもちゃを奪われるようなもの。だから、貸し借りがうまくできず感情的になってすぐに喧嘩をします。しまったり、泣き出したりしてしまいます。

地球は今、このレベルです。それゆえ、「みんなで幸せになるには、どう生きればいいのか？」と考える機会を与えられています。

一方、大学生くらいのお兄さん、お姉さん星になると、「みんなで仲良くしましょう」などと言わなくても、感情をコントロールして、人付き合いができるようになってきます。それは「感情」を制御する「理性・意志」が育っているからです。

だからでしょうか、感情の幅が少なく、いつも幸せの状態にいます。

とてもうらやましいですよ。でも、常に平坦で穏やかな状態なので、人を通して学ぶ機会も少なければ、葛藤かっとうもありません。そのため、他の星では、魂を大きく成長させることが難しいのです。

つまり、空の上では、私たちがやっかいだと思っているこの感情こそ、魅力的なものに映っているということです。

自由意思で愛の星にするために見守り中

喜怒哀楽を通じて感情のもつれを体験できる地球は、宇宙から見ると「ハラハラドキドキ」です。自由意思があるゆえに、感情を通して魂がどんな成長をするのか、地球外の人たちが、かたずをのんで見守っています。

本当はもっと早く成長させて、愛の波動でいっぱいになる星になってほしいのです

が、宇宙から物理的に関与してはいけない、という宇宙の掟おきてが存在しているので、直接手を出すことができません。ですので間接的に、進化した星からこどもたちが地球に生まれてくれているのですね。

それにしても、まさに宇宙とは、できの悪いわが子のフォローをしてあげたくなるところを、ぐっと我慢して失敗をさせる母親のようなイメージです。

自由意思があるゆえに、愛の波動で満たすこともできれば、恐れや不安などの囚われのなかで生きることができず、地球という星なのです。

そんな大人気の星に生まれて来るこどもたちはみな、「愛」でいっぱいにしてようとやる気満々な、愛の伝道師なのです。

「起承転結」のシナリオを持って 生まれるよ

家族や友人は使命を果たすためのキャスティング!?

私たちは生まれる前に、この地球でやりたいこと、学びたいこと、体験したいことなどいくつかのミッション（使命）を決めてきます。 いわゆる、人生の設計図であり、シナリオ作りです。

さて、では空の上でどんな使命を決めてくるのかというと、たとえば、

「アイドルになってみんなを楽しませてあげたい」

「発明品をつくって人の役にたちたい」

など具体的な内容を決めてくる子もいれば、

「みんなを笑顔にしたい」

「たくさんの人を喜ばせたい」

「困っている人を応援していきたい」

など、ざっくりした内容だけの子もいます。

ミッションというと、「世界に貢献する」といった大きなことに思えますが、実は、普通の生活のなかにあるものだったりします。

ミッションを実現するためには、人生のどこかで目覚めて、成長していくシナリオも必要です。**そこで、自分を成長させるために、悲しみや寂しさ、憎しみといった感情を使うような出来事をシナリオに書き込みます。**感情を使うことで、魂を成長させることができるからです。

そして感情的になるためには、感情的にさせる相手が必要です。そこで、転生のたびに、家族や恋人、親友など近いところで生まれ変わっている強い魂のつな

がりを持つグループソウルの誰かに、悪役をお願いしたりすることもあります。たとえば、お父さん役は【いつも不機嫌な怒りん坊】というキャラクターで、お兄ちゃん役は【なんでも自分の手柄にする意地悪なキャラクター】で……というふうな。

こうしてチームで成長させあうことも視野に入れながら、人生の「起承転結」を書いたシナリオを持って生まれてくるのです。

そう考えると、苦手な相手のことが急に愛おしくなりませんか？

誰だって、いいとこどりをしたいのに、わざわざ悪役を買って出てくれるというのは、あなたを愛していないとできないこと。

今、人間関係でつまづいているのなら、そこにあなたが決めてきた起承転結の「転（目覚めるタイミング）」が隠れているのかもしれないね。

助けがいのありそうなママを選んでいるよ

こどもたちがシナリオに書く使命はいろいろですが、幹の部分ではどの子ども「誰かのお役に立ちたい」という共通の願いがあります。

その「誰か」の最初の1人が「ママ」。ですので、ママを喜ばせたい、ママを笑顔にしたいなど、もつとも助けがいのありそうなママを選んでくるのです。

ママが決まると、ときにこどもたちは空の上からママを観察します。

ひかりは、雲の上のテレビで私を見ていたそうですが、双眼鏡でママを見ていた子もいたとか（笑）。

他にも、いろいろなことを空の上で決めてきます。

まず1つは「性別」。男女どちらの性別のほうが、自分の使命、やりたいこと

をより果たしやすいかで決めてくるようです。

また、親子関係における意味では、男の子が生まれるのは、

「ママ、女性であることに誇りと自信を持って。ママは女性的な美しさ、優しさをいっぱい持っているんだよ。それを認めてね」

というメッセージが隠れています。

女の子が生まれるのは、

「ママ、我慢しないで自分を生きて、もっと『人生』や『女性であること』を楽しんでね。自分を握り起こして、ママのなかに眠っている資質や才能をいかしてね」

というメッセージが込められていることが多いようです。

こどもはみんな、ママが本来の自分で生きられるように導いてくれているのですね。

陣痛促進剤を使わせて予定より早く産まれました

こどもは、まだまだいろいろなことを決めて生まれてきます。第4章でくわしくお話しますが、「生まれ方」もこどもが決めてくるんです。

たとえば帝王切開になったり、逆子になったりするのも、こどもの計画によるもの。偶然ではなく、意味があり、すべてメッセージが隠されています。

さらには**誕生日や生まれる土地も決めてきます。**

実は、私は空の上で、今の夫と一緒に地球に降りる約束をしていたことを覚えていますが。でも、夫が私を出し抜いて先に地球に行ってしまったので、私は急いで追いかけました。

ところが、地球に降りるときは、さまざまなセレモニーをおこなわないといけません。私は焦りながら、さっさとセレモニーを終わらせ、彼を追いかけるため

急いで地球に降りてきました。途中少し見失ってしまいました。彼は横浜、私は逗子と、約30キロの誤差で済ませることができたのです。

さらに、どうしても彼と同じ誕生日にしたかったため、自分の出産日まで変更した記憶があります。 どうやって、出産日を変更したかというと、出産予定日3週間前にもかかわらず、自分の母親に陣痛促進剤を使わせました。

お腹のなかで思ったより大きく育っていたので、出産予定日まで待つと大変になるから早いほうがいいと、お医者さんが判断したのです。

また、その日は父の仕事が休みで、たまたま他のお産もなく空いていたそう。偶然が重なったように見えますが、きっと私がそうさせたのでしよう（笑）。

こうして、彼より6時間遅れの同じ4月12日に、なんとか間に合わせる事ができました。

大人になってから、友達に「華香ちゃんと同じ誕生日の人がいるから紹介するね」といって紹介されたのが、今の夫でした。 私は空での記憶があったので、「あ、

この人だ！」とすぐに分かったことを覚えています。

アイドルになりたい子は、キレイなママを選んでくる！

こどもは容姿に関しても自分で決めてきます。

ひかりが教えてくれたのは、たとえば、「アイドルになってみんなを喜ばせた」という使命を持っている子は、まずアイドルになるために美しい容姿を持つママを選ぶそうです。

その後、そのママの顔に似るように、雲の上のショッピングモールで、目、鼻、口、手、足などのパーツを選ぶといえます。

その他、名前、結婚相手、職業……さまざまなことをシナリオに書き入れて、この世に生まれてくるのです。



では、人生はすべてシナリオ通りにいくように決められているのかというと、
そういうわけでもありません。

特に、何度も地球に生まれてきた経験のある魂を持つ子は、シナリオの起承転結の「起」と「結」の部分だけを決めてきて、あとは自由意思でどんな道にも行けるようなフレキシブルな設計だったりします。

それに比べると、地球経験の少ない魂を持つこどもたちは、細かくシナリオを決めてきていることが多いようです。私たちもはじめての旅先では観光地や宿泊先、移動手段をこと細かく調べ、計画を立てますよね。でも、何度も行っている場所では、「行き、帰り」のきつぷと、いくつかの目的地だけ決める、というざっくりした計画しか立てないと思います。それと似ています。

こどもはみなそれぞれシナリオを持って生まれてきていますから、焦らさずこどものペースで見守ってあげましょう。ママがリラックスして見守れるようになると、こどもたちは本来の自分自身で生きられるようになるのです。

神さまがこどもたちの 配属先を決めているよ

男の子だけの国や、女の子だけの国がない理由

学校のクラス分けて、実にバランスよく配置されていると思いませんか？

頭のいい子、盛り上げ役の子、ピアノの弾ける子……それぞれ才能を持った子はどこか1つのクラスにかたまらず、各クラスに散らばっていますよね。

これは、学校の先生が、かたよりを作らないように、バランスよく配置しているからです。

これと同じように、周りに影響力のある子は、どの地域にも均等にはらけるよ

うに、神さまが配置を決めています。

周りに影響力のある子とは、ハンディキャップなど人の手を借りる子だったり、新しい時代に向けての改革者的存在になる子だったり。

宇宙船から地球を見て、バランスが悪い地域があると、「ここにこんな子をください」「あそこにあんな子を送り込んでください」というふうに神さまにリクエストして、配置されるのです。

自分と違ういろいろな人と接することで、新しい見方、考え方を吸収しながら、いろいろな側面を味わうことこそ、地球に来る目的なのです。

「ハンディキャップ」を選ぶ子は勇者です

ハンディキャップを持つ子は、立候補して自らがなっています。

空の上では、



ができれば褒めてくれる……」という条件付けの愛ではない、この地球で学ぶ最後の砦^{かき} Ⅱ【無条件の愛】を、自ら学びやすいようにしているのです。

「僕、今回はたくさんの人に助けてもらいたいで耳が聞こえないハンディキャップをやってみます」

「私は、今までと違う経験をして愛を学びたいので脳がうまく機能しないハンディキャップをやってみます」

というふうに、やりたい子たちが手を上げるのです。

私が娘のひかりに、「なんで、あなたはハンディキャップを選ばなかったの？」と聞くと、「選ぶのがこわかった」と教えてくれました。

ハンディキャップを選ぶことで自分も周りも魂の大きな成長が得られることは分かっているても、やっぱりこの地球で生きるのは、とても大変なこと。だから、それを選ぶのは、かなりの勇氣があることもただちだといひます。

私がリーディングする限り、ハンディキャップを選ぶ子の多くは、地球での転生数が多い傾向にあります。地球での生活がどんなものか分かっているので、今度^{たび}はハンディキャップを持って生まれることで、【人とつながる経験】や、「何か

僕たちは地球を守りに来た 地球防衛軍だよ！

1人ひとりがイキイキすることで地球は守られる

胎内記憶を持つ子と話をする、みな口をそろえてこう言います。

「僕たちは地球を守りにきたんだよ！」

地球を守ると言っても、スター・ウォーズのような宇宙戦争に備えるとかでは
ありませんよ(笑)。

**——好きなことを実現させて、この地球という舞台上で1人ひとりがイキイキと
魂を輝かせて過ごすこと。**

それが、地球を守ることになると思います。

たとえば、スイーツ作りが好きなならパティシエになる、マンガを描くことが好
きななら漫画家になるなど好きな職業につくこともそうですし、植物に触れている
ことが好きなら自然に囲まれた場所で心安らかに過ごす、写真が好きなら趣味で
美しい風景の写真を撮るなど。

とにかく、日常が幸せな心地で満たされることを心がけることで、地球の波動
も良くなり、1人ひとりの心から争いがなくなって、社会に平和をもたらし、結
果、地球を守ることに繋がっていくのです。

すべてはイメージから始まるんだ

さて、この地球で好きなことを思う存分するために、こどもたちは何をするの
かというと、心のなかで地球を守るイメージをしています。それは、地球に行く

と決めた時点で、生まれる前から始めています。

「地球を守るイメージ」は人それぞれですが、ひかりは、優しいピンク色の光で地球を包んでいるようなイメージをしていたそうです。

なぜイメージをするのかというと、宇宙では、思ったことは現実になると決まっているからです。

天界では、イメージしたことはすぐに叶います。

一方、地球で暮らす私たちは、頭でイメージしただけはすぐに現実にはなりません。

体という物質に【思い】を伝えることで、細胞の振動を加速させます。すると体が願いのほうに向かって動き始めるので、現実となるのです。

また、それによって脳波も変わります。脳から出ている波長が変化し、欲しい現実との波長と一致し、そのことも手伝ってしばらくすると望む現実がやってくるのです。

るのです。

体に【思い】を転写するためには、心が動くことが必要です。

よく「ワクワクすることが大事」と言われますが、それは、「気持ちいいな〜」「キレイだな〜」といった五感を通して、はじめて心が動くからです。

でも、多くの人は五感を使わず思考だけで望みます。

そのため細胞が振動せず、波動は上がらないままなので「願いが叶わない」のです。

さまざまな知識を吸収し、頭でっかちになった大人は、なかなか心が動きにくいものですが、空にいるこどもたちは、心の目を通してすべてを見ています。

誰もが魂を輝かせて生きられるように、地球の調和を願い、地球を愛で包むようなビジョンを持って生まれてくるこどもたちは、イメージの力のすばらしさを理解している輝かしい存在なのです。

みんなで、地球をおそうじしているよ！

今、地球には重たいエネルギーが滞っている

地球を守るイメージをすると同時に、こどもたちは、

「地球をおそうじに来た」

とも言います。

いったいどんなおそうじをしているのかというと、地球に蔓延する「自分本位のエネルギー」を取り除くのです。

相手に嫉妬したり、自分を責めたり、執着したりする自分本位のエネルギーは、

地球のエネルギーを重くしていきます。地球の波動が下がると、再生力が低くなるので、私たちも活発に動けなくなります。

たとえば、ゴミがあちこちに散乱している部屋に一日中いたら、どうでしょうか？

創造的なエネルギーが失われて、無気力になりませんか？

それと同じことが地球でも起こっているのです。

のちほどくわしく話しますが、地球は子宮でもあります（もちろんダジャレではありませんよ。笑）。

さまざま重たいエネルギーが地球に張り付いてしまっている今、この想念を循環させないと、生命力も潤っていきません。

だから、こどもたちは地球をおそうじするのです。

どんなふうにおそうじするのかというと、大きな掃除機でモヤモヤを吸い取っているビジョンを描くそうです。

赤ちゃんやこどもが、大きな掃除機で重いエネルギーのゴミを吸い取っているイメージをすると、そのビジョンは天界にも転写されて、まだ生まれていない子たちも一緒に手伝ってくれるそうです。

しかも、こどもたちは地球が大好きなので、率先して、おそうじしがります。
他の星に行っても、あまりおそうじをする必要がないのですが、地球はおそうじしがいのある星なのです。

ちなみに、地球のおそうじは、小さな子の場合、行動にも現れます。

たとえば、パパとママが夫婦喧嘩をしていると、「ママ、大丈夫だよ」と言わんばかりにママにすり寄ってママの心を癒したり、場の空気を和ませるために大人の笑いをとろうとしたりね。

こどもたちがおそうじを止めてしまうときって？

こうして、こどもたちは、地球に張り付いた想念をみんなでおそうじしてクリンにしているわけですが、そのおそうじを止めてしまうときがあります。

それは、「褒められるために」や「認められるために」おそうじをしようとなつたとき。

本来こどもたちは、みんな地球が好きでやって来ます。ですから、おそうじをして地球に貢献できることが、本当に心からの喜びなのです。ひかりが言うには、赤ちゃんや小さなこどもたちは、全員おそうじをしているそうです。

ところが、「褒められる、認められること」が目的になってしまうと、純粹に喜びだった感情が不純なものに変わってしまうことになります。すると、いざおそうじをしようと思っても、苦しくなってしまうんですね。



大人もこどもも、愛の力を発動するとき、それは地球のおそうじをしていることになるのです。

これは分かりやすく言うと、単純に楽しいだけでやってた【アクセサリー作り（趣味）】を仕事にしてみたたら、「もっと人に評価されたい!」「もっとお金を稼ぎたい!」という気持ちのほうが勝ってしまうような感じですよ。

こうなってしまうと、純粹にアクセサリー作りを楽しんでいたときの気持ちはどこへやら。道具を見るだけで、辛い気持ちや焦る気持ちが湧いてくることになりかねませんよね。

では、大人は地球のおそうじをしないのかというと、そんなことはありません。大人たちだって、無意識で地球をおそうじしています。

その1つが「祈り」。

祈りとは、誰かのためや、何かのために思いを馳せること。そして、神さまとのコミュニケーションの方法。それらが、地球の波動を軽くするおそうじになっているんです。

こどもたちは誰よりも ママを幸せにしたいんです

ママが人生初の幸せ配達先

先ほどお伝えしたように、こどもたちはこの地球を守るために、愛をイメージすることで地球の調和をはかっています。ですが、なかでも、もっとも愛で包み込んでいるものがあります。

……それは、ママ！

ママを決めてこれから地球に降り立とうとすることもたちは、「誰よりもママを幸せにしたい」と思っています。ずっとママのお腹のなかで育ち、一心同体

だった赤ちゃんは、ママの思いや癖、葛藤まですべてを分かっています。

ですから、ママが本来の自分で生きられるように、愛のエネルギーでママも一緒にくるみながら、ママを人生初の幸せ配達先を選ぶのです（ママを人生初の配達先に選ばないこどももいますが、それはのちほど）。

ママに幸せを配達できたら、次はパパ。そして、おじいちゃん、おばあちゃん、親戚のおじちゃん、おばちゃん、近所の人、お友達、学校の先生……というふうに幸せ配達先をどんどん拡大させていきます。自分が愛の存在だと知っているからこそ、こうして愛を広げていけるのですね。

ママと地球のびっくりな関係

こどもが「まず何よりもママを守りたい」と思う理由。それは……

「地球はママの星だから」

女性は創造の源みなもとです。女性のなかには生命を生み出すお宮（子宮）があり、そのお宮は神さまがまつられている神社を表します。

その神さまが住む場所が女性の子宮なので、ママを守ることは地球を守ることにつながるのです。

地球Ⅱママ。

まさに、地球の最小単位が、ママなのです。 こどもたちは、そんなママと地球の関係をちゃんと理解して、ママを愛のエネルギーで守っているのですね。

こんな話をする、「さつきからママばかりひいきするけれど、パパはいらないの？」と聞きたくなりませんか？ 安心してください。パパにも地球にとつてちゃんとした役割がありますからね（笑）。

パパは地球を囲む宇宙です。

地球という星は、穏やかなときもあれば、火山が噴火したり、地震が起こった

りなど目まぐるしく変動するときもあります。

それは、子宮を持つ女性ならではの感情の起伏ともリンクしています。

子宮は、ラテン語で「hysteria（ヒステリア）」と言いますが、これは「ヒステリー」という言葉の由来だそうです。子宮は水の気質があり、先ほどもお伝えしたように水とは感情を表すもの。

子宮はとても感情豊かな臓器なのです。

そうした子宮を持たない男性は、穏やかで洞察力があり、包容力、叡智えいちに優れている存在。宇宙が存在するから地球が存在できるように、女性は男性の手のひらで転がされている、というのが真実なのかもしれません。

ママと地球、パパと宇宙……。

こどもたちは、絶妙な組み合わせで築かれる家庭のなかで、地球を……そしてママを守るために生まれてくるのです。

ママが大嫌いなこどももいます

ここまでこどもにとってママは何よりも大切な存在とお伝えしてきました。**しかし、実はなかには、ママが大嫌いなこどももいます。**
ママのお腹だけ借りればいい、産んでくれただけでOK、という子も全体の5%くらいはいるのです。

そういう子は、ママを守る代わりに、パパや、両親の親戚など、ママの周りの人と縁を結びたいと思っていることが多いようです。

よくあるのが、ママやパパのおばさんにあたる人が独身で、その人と深くかわることを決めてきている場合です。

そのミッションを実現するには、ママが好きだとできません。なぜなら、ママと一緒にいたくなってしまいうからです。

ですので、わりと問題を多く抱えているママの元にわざわざやって来て、

「ママは私を愛してくれないけれど、おじさん、おばさんは私を理解してくれる」

「ママは感情的で嫌いだけど、こどものいないおばさんは私を本当のこどものように可愛がってくれる」

といったシナリオを書いて、生まれてくるのです。

なぜ、困難な状況をあえて選ぶのかというと、その子はさまざま問題をクリアして、自己成長したい勇氣あるチャレンジャーの魂を持っているからです。

本来は大好きでいたいママの存在。そのママを嫌って、憎むといったやりとりをするなかで、うんと魂の経験を積みたいのです。

ただ、あまりにも周りから突き放されると、本来の自分を取り戻せなくなる危険もあるため、ママの身内（おじさん、おばさんなど）がとても理解ある方で、その子のサポーターになってくれることが多いようです。

兄弟は、
ママと一緒に守ってくれる戦友だ！

上の子はアタッカー！ 下の子はディフェンダー！

兄、姉、妹、弟……。

これら兄弟の構成も、空の上で決めていきます。どちらが先に地球に行くかも話し合いがなされ（たまに、決めた順番を出し抜く子もいますが）、ママにどんなお土産（ミッション）を持っていくかも相談しています。

お土産といっても、経済的に豊かになるとか都合のいいものばかりではありません。

ママが愛に気づき、本来の姿で生きられるように、さまざまな形で気づきを渡すのです。

それが、こどもがママに持ってくるお土産です。

第一子について

第一子になる子は、ママの傾向をいろいろと探るので、あの手この手でママに気づきを与えようと、感情を揺り動かすような、さまざまなバリエーションに富んだお土産を持ってきます。

いわば、ママのアタッカー役です。

よく「上の子を愛せない」というお母さんたちの悩みをお聞きますが、それは、上の子がママの感情を刺激して、本来の自分自身からズレていることを気づかせようとしているからです。

そのため、上の子の多くは、ママと同じか、まったく正反対の資質を持ってい

ます。

同じ資質の場合は、自分を見ているようでイライラさせられ、まったく違う資質の場合は、理解できないのでムカつきます。

こうして、ママからイライラ、ムカムカという感情を引き出すことで、お互いの経験値を上げながら、ママに本来の自分を気づかせていくのです。

果敢にママに体当たりしながらアタッカー役としてがんばっている第一子は、

「ママってこんな人だよ」

という報告を、空の上で待っている下の子に夢やイメージ、テレパシーを通じてお知らせしています。

「空の上で書いたシナリオ通りにはいかなそうだよ」

「ちょっとやり方変えたほうがいいよ」

など、第一子からの貴重な結果報告をもとに、第二子は自分はどうななお土産を

持って行こうかと計画を練り直したりします。

第二子について

下の子って、わりと要領が良かったり、家族の中和役だったりしませんか？

こんなふうに家族を支えるディフェンダー役が多いのは、上の子がいろいろ試みてくれたからなんですよ。

ママのイライラが上の子よりは少ないので、愛されるために「〜ねばならない」が少なく、自分の道を明るくたくましく進む子が多い傾向があります。

しかし、下からママや家族を支える立役者のことも多いのです。

第三子について

第三子ともなると、お兄ちゃん、お姉ちゃんたまものの努力の賜物で、

「今度は、私がママを癒すね」

という役割で降りてくることが多いようです。

第一子、第二子からさんざん揉まれて気づきが近づいたママに、本当の意味でいよいよ癒しや安らぎを手渡すのが、第三子の役割かもしれません。

もちろん、兄弟間でも、お兄さんやお姉さん、妹、弟を通して、どのように自己成長していくかというミッションも含まれています。

ですが、兄弟とはみんなで家族を良くし、ママを守るために、**バランスを取りながら役割分担をする**のが本来の姿です。

そのため、上の子と下の子は逆の資質になることが多いようです。

ただし、こどもが3人がかりでママにお土産を持って来てもママがいつこうに気づかないと、3人とも、同じ症状でお知らせしてくることがあります。3人そろって反抗的になったり、立て続けにケガをしたり……。

なかなか気づかない手ごわいママの場合は、兄妹で一致団結して、ママに幸せ

を手渡すことができるまで気づかせようとし続けるのですね。



「兄を守る」と決めてきた私の胎内記憶

私は、空の上で兄と一緒にいましたが、母だけでなく、兄も守るために兄の妹

として生まれることを決めていました。兄が先に地球に降り立つときに「私が守るから大丈夫！」

と言った記憶が残っています。

実は、私の兄は青年期に難病になり、車椅子の生活をしています。

兄は全介護を受けないと生活できませんが、私も兄のためにお金のこと、介護のこと、彼のやりたいことなどいろいろサポートしたのです。

兄が元気だった頃は「私が守るから大丈夫！」の意味が分からず、

「なんで私がこの人を守るんだろう？」

と思っていました。兄のサポートをするようになってはじめて

「あ、このことだったんだ」

と腑に落ちると同時に、兄を通して私自身も、ものすごく成長させてもらえます。

「この人といると懐かしい気持ちになる♡」の正体

相手の目を見ると、なんとなくその人のことが分かる気がしませんか？

実は、瞳の奥にある光は、何度転生しても変わらず持ち越します。

目の奥の光にはその人の魂の記憶がすべて詰まっているので、目を見て話すと生まれる前に一緒だった人かどうかも分かります。

先日の出張で、ある小学校1年生の男の子が私の目をのぞきこんで来て、こう言いました。

「僕、華香先生のこと知ってる。生まれる前、華香先生も宇宙船に乗っていたよね。僕は大きい宇宙船で、先生は隣の小型の宇宙船。そこでリーダーしてたよね」

この話はトップシークレットで、お母さん以外には話してないそう。思わず、彼をハグしちゃいました(笑)。



特に、親子のような近い関係の場合、グルーブソウルのなかで何度も同じ時代に転生しているので、目を見ると、

「なんだか、懐かしい」

という気持ちになることも多いようです。

あるママに聞いた話では、出産を終えて、はじめてわが子を抱っこしながら目を見つめたとき、

「あ、この子のこと知ってる。また会えたね！」

という感覚になったそうです。

表面上は分からなくても、魂にはちゃんと刻み込まれていますから、ぜひお子さんとアイコンタクトをしてあげてくださいね。

もう1つ、何度転生しても変わらないものがあります。

それは「声の質」。

男性として生まれたこともあれば、女性として生まれたこともあるので、もちろん声のトーンは変わりますが、その人の持つ声の特徴（たとえば、発声法だったり、温かみのようなもの）は変わりません。

ですから、妊娠中に赤ちゃんに向かって声かけをすることはとっても大事。

赤ちゃんはその声を聴いて、「そうそう。グルーブソウルの○○ちゃんをママに選んだよね」と絶対的な安心感を得ているのです。

空の上では、神さまと こんな打ち合わせをします

人生のシナリオはみんなで相談して決める♡

こどもは空の上で、人生のシナリオを書いてくると言いましたが、どこで書いているのかというと、まさに学校のような場所で、神さまの指導のもと、シナリオ書きをしているようなのです。

胎内記憶を持つこどもたちの話によると、その学校には、机があつてグループ活動をしながら、絵巻物のような長い紙に、人生の設計図を描いているようです。

なかには、設計図が描けずに困っている子もいて、その子にはお世話係が起承

転結の作り方を教えてあげたり、神さまと相談して、本当にこの子にはこのママでいいのか念を押したりしてくれているそうです。

まさに、学校の進路指導室のような場所！

神さまとはどんな存在かというと、「大きい人」と言う子もいれば、「ブツダミたいな人」と言う子もいます。

イメージの世界なので、それぞれがイメージしている神さまが現れているのでしようね。

どの子の話にも共通するのは、人生のシナリオを考えるときは、1人ではなく、グループで考えるということ。学校で言うとは班活動のような感じですよ。

魂は、人を通してさまざまな経験をするためこの世に生まれることを望みますが、すでに空の上からグループ同士のつながりを経験しているのですよ。

こどもの名前を決めるとき、親はそこにさまざまな思いを込めることが多いでしょう。

こどもが一生涯ともにする名前ですから、決めるのも慎重になりますよね。

でも、本当のことを言うと、名前はこどもが決めています。

こどもが決めた名前をパパやママ、おじいちゃん、おばあちゃんなどにインスピレーションで送って、キャッチされたものがこどもの名前となるのです。

なぜ、自分で名前を決めるのかというと、神さまとの約束を忘れない暗号の役割が秘められているからです。生まれる前、誰もが地球でのシナリオを書いてきますが、多くの子は、体を持つとそのシナリオを忘れてしまいます。

ですので、シナリオの一部を名前に秘めることで、自分の決めてきたことを思

実は名前も空の上ですでに決めていきます



い出せるようにしているのです。

私の娘の名前は「ひかり」と言いますが、ひかりに「なんで、その名前にしたの？」と聞くと、

「地球には迷子の人がたくさんいるから、神さまに、迷子の人たちを『こっちだよ』と導くように、お願いされたの。迷子が道をまちがえずに歩くためには、高くて大きな光だったら、どこからでも分かるでしょ？」

と教えてくれました。

娘はこの名前を、私と夫に送っていたようですが、私はその名前を「キャッチした！」と思う瞬間がありました。とても印象的な夢を見たのです。

それは、私と夫で夜行列車に乗って旅をしている夢でした。

窓の外を見ていると突然景色が変わり、菜の花やひまわりなど黄色い花が一面に咲き乱れる花畑にたどり着いたのです。花畑に降りて、その先を見ると光り輝

く海が見えました。

その美しい光景に感動していると、海の方からキラキラと輝いた大きな朝日が昇ってきました。その瞬間、「あつ、ひかりが来た！」と感じ、あまりの嬉しさに花畑に飛び込むという、人生でもっとも感動的な夢でした。

朝、目が覚め「もしかしたら、受胎したかも？」と直感的に思いました。それから3週間後、病院に行くと、本当に妊娠していたのです。

もちろん名前は「ひかり」に！この夢は、ひかりが送ってくれたメッセージだと確信しています。

メッセージはいろいろな方法で送っているよ

以前、まだママのお腹のなかにいる赤ちゃんとお話をしたとき、

「私は咲きたいの！人生を咲かせて生きたいの。」

それを忘れないようにするわ！」

と力強いメッセージを送ってくれました。

そこで、参考までにママに

「お名前は決まっていますか？」

と聞くと、

「この子が生まれるときは、芙蓉ふようの花が満開になるので、芙美ふみと名付けるつもりです」

とおっしゃいました。

すると、お腹の赤ちゃんは足をバタバタさせ、元気いっぱいママのお腹を蹴飛ばしてきたのです。

その子はもちろん「芙美」と名付けられました。

また、神さまが偶然を装ってメッセージを送っていることもあります。

以前、ワークショップに来てくださった妊婦さんが、お腹の赤ちゃんの名前を悩んでいました。

そこで、私が赤ちゃんに聞いたところ、

「こ…ッ…き」

とかすかな声をキャッチしました。

ママに名前の候補があるか聞いてみると、「こうき」か「ゆうき」で迷っていると言います。

すると、その妊婦さんの隣に座り同じワークショップに参加してくださいました。こどもの名前が「こうき」でした。

神さまは、「こっちだよ」と教えてくれていたのですね。もちろん、赤ちゃんの名前は「こうき」に。

こどもが自分で名前を決めて、それを身近な人がキャッチする。

そんな連携プレーで、こどもの名前が決められていくなんて、不思議ですね。

下の名前で呼ぶとエネルギーがアップ！

あなたは、お子さんをなんと呼んでいますか？

また、あなた自身は、周りになんと呼ばれていますか？

私は、クライアントさんのことを下の名前でお呼びしますが、**それは下の名前で呼ばれたほうが、生命エネルギーが増し、やる気と潜在能力が格段とアップして、気づきが早まるからです。**

この地球でやりたいことを暗号にしたのが名前ですから、当然ですよ。

また、日本語は漢字一文字にも、たくさんの意味が込められています。少し前までは、「洋子」「裕子」のように、最後に「子」をつける名前が流行りましたが、

「子」には、「始めから終わりまで」という意味があります。

ですので、たとえば「愛子」という名前であれば、

「生まれてから死ぬまで愛を貫き通す」

というような意味だったりします。

あなたの名前も、漢字や音、言葉の意味などを調べてみると、地球でのシナリオやミッションが紐解けるかもしれませんね。

ミッションを全部クリアした 魂ってどうなるの？

グループソウルが解放するとき

何度も言うように、地球で経験したことをまた空の上に持ち帰り、そしてまた新しい命として地球にやって来る、ということをお私たちの魂は繰り返しています。それもこれも、「自分とは何者なのか？」「愛とはどんなものか？」を知るためでしたよね。

そのために、魂のつながりの深いグループソウルのなかで、「過去世ではあなたがママ役で私がこどもだったから……今世では逆の立場で学

んでみよう！」

など、家族など身近な人として役を入れ替えて、行ったり来たりしています。

まさに、劇団員のなかでママ役をやったり、こどもの役をやったり。こんなふういろいろな役を交代で受け持っているイメージなのですが、この劇団員も最終的には解散します。

もう役割を演じる必要がなくなるときがくるのです。

私は今回の人生で「自分の属するグループソウルの役割を終わらせた」と思った瞬間がありました。

兄のことであったり、両親のことであったり、家族間でのすったもんだを繰り返すなか、お互いが本当の意味で愛を受け取り、それぞれが自分の人生を生きることができるようになったのです。

まさに、親に対して娘をやりきり、兄に対して妹をやりきった瞬間でした。



私は宇宙の外に放り出されたような感覚になり、3日間くらい立ち上がれないほどの衝撃を味わったのです。

私たちは、どんなに仲たがいをしているも、

「いってくれてありがとう」

「愛しているよ」

ということをただ体現して生きていきたいのです。

でも、生きているうちはそのことに気づけず、意地もあって、なかなか伝えられませんが。

そして、本当に心から愛を伝えたいと思ったときは、たいていその相手は亡くなっていたり離れていたります。

その後悔から、今度生まれ変わったら、絶対に愛を伝える！ 体現する！ という志を持って、違う役回りになってすったもんだを繰り返すのです。

だから、「生まれているうちに、愛を伝えて、愛する人とをやり尽くす」んですよ。

これは、誰にとっても私たちが生まれてくるときに決めてきたミッションなのです。

では、具体的にはどのようにそのミッションをクリアしていけばいいのか……については、このあとゆっくりお話しさせていただきますね♪

ひかり語録〔1〕

地球を選んだのはね、

色んな国や、色んな人、色んな言葉、

たくさんいろいろながあって、

それがいいなあって思ったの。

いろいろが楽しいし、いろいろが嬉しいの。